



福島潟

昔の姿を

復元が必要

——福島潟についてはみなさんどんなお考えでしょうか。

山田 行きたくなる豊栄にするためには、福島潟がいちばん手っ取り早いと思います。たとえば、野鳥観測所があるんだから、大学の野鳥観測所のようなものを造るとか、というようなことを考えてもいいんじゃないかと思えますね。

長谷川 あそこは、やはり自然公園というかたちで残しておいてもらいたいですね。鬼蓮はいくらも生きていませんし、この保護を市でやってもらいたいと思います。

市長 福島潟についての、いわゆる夢というか、いろいろな意見を集約してみると、それは、あれは県内の平野に残された唯一の自然だとわたくしはいつももっているんです。山や海の自然は、たくさん残っています。平野に残された自然は、もはや福島潟にしかないんですよ。

この自然も、新井郷川の排水機ができて、水位が下って、もはや昔の自然でないんです。あと数年後には原野になっちゃいます、わずかに水路を残すだけになるんじゃない

かと思えますね。それで、福島潟の自然をもう一回昔の姿に復元する必要がありますか。

これは、一層ぐらいいしゅんせつして、昔ぐらいの水面を確保する。そういうようにして昔の自然に還す。そうすると、膨大な泥がたまりますから、その泥をもって潟をのぞんだところに公園を造る。少くとも五万坪、欲をいえば十萬坪くらい。その公園にはいろいろな施設、老人施設、青少年施設、あるいは文化施設というようなものを造る。

動植物から、昔の蒲原平野を象徴するようなものを集めた博物館、スポーツ施設、もちろん休憩場所や売店なんかも必要でしょうから、市が認めた施設を適正配置する。

おそらく、何十億もかかるでしょうから、とうてい市だけではできません。国費を当てようというのを、県へも話しています。

そこで考えねばならないのは、福島潟の自然を守る会ができ、これは非常にいいことなんです。この発会式に行きましたら、いろいろな質問や意見の中で、「自然を守る」「野鳥の豊庫」だといっていると、周辺の田が荒さる。こういうことで、は困る。というような声も、相当でてきたんですよ。

そこで、わたくしはこういうことをいったんですよ。

『なぜ自然を守るか』というのを考えてやれば、間違いないんだとかく自然が大事だ、野鳥を保護しねばならないという人は、野鳥ばかり考えるか

ら、田を荒す野鳥のことを考えないで大事だというけれど、自然を守るということは、人間が大事だということの基本なんですよ」と。『人間が大事だから、破壊されていく自然を守らねばならないというのを考えてやれば間違いない。福島潟の自然を守る会』

精神的豊かさ

香り高いまち造りを

市長 どの話になっても、金がなければだめだというようになりましたが、豊かさは物質的、経済的なものだけではない。精神的な豊かさも大いに考えたいですね。

幸い市民には、文化的関心や教養の高い人も多く、一般にその傾向も強まっています。公民館の市民講座や団体活動、文化祭の出品などもさかんになっていきますね。

私は今年三月の定例議会で新年度の方針の中に、市民憲章、市の歌、市の木、市の花

は、人間が大事だということに基本において活動してもらいたい——とこういったんです。

とかくそういうところに食い違いがありますから、そういう考えをもっておれば心配ないと思うのです。

等を制定したいと述べたのですが——、これは市長が事務的に制定しても意義がない。市民のよりあがる意志でできられ、これをもととして一そう文化の香り高い、豊かなまちづくりに発展してほしいのです。

——まだいろいろあるかと思いますが、予定の時間をだいぶオーバーしてしまいました。ではこの辺で……

市長 非常に貴重なご意見やらご質問をいただき大変ありがたうございました。



(「潟の菱とり」昭和30年、内山誠七さん(上町)撮す)